

会議録（概要）

会 議 名 称	令和6年度 第2回愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	令和6年11月28日（木） 午前9時から午前10時50分まで
開 催 場 所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	平井直人委員、渡邊康子委員、土赤摂津子委員、神田善郎委員
公開・非公開	公開
傍聴人の数	0人
審 議 事 項 等	●報告事項 令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート及び愛知県・市町村人口問題対策検討会議について ●審議事項 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について ●その他
会 議 資 料	・次第 ・委員名簿 ・会場配席図 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略（本冊） ・資料1 令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート及び愛知県・市町村人口問題対策検討会議について ・資料2 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況
審 議 経 過	別紙のとおり
議 事 録 の 確 定	
確 定 年 月 日	署 名
令和6年12月24日	署名委員 加 藤 憲 治

愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会 長	千頭 聡	
副 会 長	加藤 洋平	
	川上 哲広	岡本 賢一郎（代理出席）
	田中 智香	
	加藤 俊一	
	安田 清時	
	水野 善弘	
	加藤 憲治	
	平井 直人	欠 席
	水野 恵介	
	加藤 大典	
	山田 慎太郎	
	大橋 秀樹	
	水野 秀俊	
	米澤 正	
	佐藤 善昭	
	渡邊 康子	欠 席
	土赤 摂津子	欠 席
	恒藤 貴哉	
	横井 敏彦	
	神田 善郎	欠 席

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
市 長	日永 貴章	
副 市 長	清水 栄利子	
市民課長	橋本 創	
シティプロモーション課長	伊藤 義幸	服部 好輝（主査）代理
財政課長	堀田 毅	
総務課長	青木 万亀雄	
健康推進課長	猪飼 政和	
子育て支援課長	前野 輝次	
産業振興課長	清水 直樹	
都市計画課長	佐藤 政樹	
企業誘致課長	藤澤 寿章	
市民協働課長	丹羽 久美	
学校教育課長	伊藤 光	
生涯学習スポーツ課長	大原 守人	
社会福祉課長	水野 裕公	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部参事	澤井 勇一郎	
企画政策部経営企画課長	井戸田 悦孝	
企画政策部経営企画課課長補佐	若松 孝志	
企画政策部経営企画課主事	富田 智美	

審 議 経 過

発言者	内容（概要）
事務局	開会 資料の確認 会議の公開と傍聴について[愛西市審議会等の会議公開に関する要綱第3条] 会議録の作成[愛西市審議会等の会議公開に関する要綱第11条]
市 長	1. あいさつ ＜市長あいさつ＞
会 長	2. 会議録署名委員の指名 ＜議事録署名委員として加藤憲治委員を指名＞
事務局	3. 報告事項 令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート及び愛知県・市町村人口問題対策検討会議について ＜資料1について 事務局より説明＞
会 長	ただ今の説明は、次期総合戦略にも繋がっていくと思います。何かご意見がありましたら、お願いします。
委 員	重要な情報をこの場で共有いただきましてありがとうございます。愛西市でもすごく重要で、すぐに対応しなければならない問題であると感じています。一方で、難しさもあり、これまで議論なされてきていると認識しています。 ワーキングで当面検討すべき課題として、農林水産業の振興、地域交通の確保、空き家の活用がありますが、市の中でこの3分野について議論されてきて、この資料に載っていない根深い問題があれば、この場で情報共有していただければと思います。
事務局	この3つの課題は、県から構成市町村へのヒアリングで、共通して多かった項目です。 例えば、空き家でいいますと、都市部の空き家と愛西市の農村地帯の空き家とでは、様相が違ってきます。都市部であれば、戸建てで駐車場があつて庭がないような空き家になりますが、この地域には、農家住宅が多くありますので、大きな住宅が空き家になった場合、単純に建物だけの問題だけではなくて、そこに紐づいている農地の問題もあります。農林水産業と空き家を切り離して考えているように見えますが、愛西市としては、県にこのような関連性がある地域であると伝えています。そういった背景があるということをお伝えさせていただきます。

委 員	地域交通の確保について、公共交通を誘引していく議論の中で、難しい課題があれば教えてください。
職 員	市として地域公共交通は、重要視していて現在、巡回バスを無料で運行している状況でございますが、持続可能というところでは、今後、更なる検討が必要であると認識しています。
会 長	地域公共交通会議の設置はありますか。
職 員	以前から必要ではないかとのご意見もいただいておりますが、現時点では地域公共交通会議が必須となるバスの利用料金の有料化を実施していないので設置はしていません。
委 員	新規就農事業の会長をしており、市産業振興課、ＪＡあいち海部、県と協議会を立ち上げています。その中で土地・ハウス等はＪＡサイドで手配することができるが、空き家はないかと市産業振興課の担当に聞いたときに、解体に関する情報はあがるが、移住できる住宅の情報は持ち合わせていないとのことでした。空き家バンクのようなものを今後作っていくのかどうか、新規就農の受け入れとして移住を今まで謳っていなかったけれども、移住を打ち出す方向でおり、移住できる住宅の情報がないと困るので今後どうされるのかお聞きしたいと思います。
職 員	空き家バンクの概要は、空き家の売却や賃貸を希望される所有者が、空き家情報について登録をして、空き家の利用を希望される方に情報提供する制度です。市は愛知県宅地建物取引業協会と協定を結び運営を担っていただいています。戸建て住宅の情報や賃貸アパートの情報が登録されており、どなたでも閲覧が可能となっています。 まちづくりの観点から、愛西市は市街化調整区域が約９５パーセントを占め、そういった中で空き家を利活用しようとするとう用途変更が必要になる場合が多数あります。特に農家住宅の属人性がついている場合は、事前に愛知県と用途変更が可能であるかどうかを確認したうえで定住・移住に向けて施策をとっていく必要があります。
委 員	前向きにこちらの意見と合うような状況で進めていただけると助かります。よろしくお願いします。
委 員	愛西市全般にわたって説明いただきました。旧４町村が合併して愛西市になりましたが、大きな問題として４地区の格差が多分あって、名鉄の駅の近くにある地域とそうではない地域の格差が大分あると感じています。住んでいる日置町は空き家が出るとその物件はすぐに宅地開

市 長	発されて、一戸建て物件として売れていく状況であり、実感としてピンとこない。そういう格差の中でバランスよく運営されるのは非常に難しいと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。 県は、旧合併前の 88 市町村を対象に、人口の 10 パーセント以上減少したところをピックアップして、今回の人口問題対策会議に、市としては良い意味で選出されたと。愛西市の実情をしっかりと県に認識をしていただいて 我々の現状を県当局が問題意識をもって規制等を緩和していただければ、愛西市も人口に対してプラス要素が出てくるのではないかと思います。立田・八開地区は、すべて市街化調整区域で、開発が市主導ではできない地域であります。愛西市全体でも市街化地区は、5 パーセントしかなく 95 パーセントは市街化調整区域で、市主導や地権者がやりたいことが行えない。県当局にはしっかり認識していただいて、市や地権者が有用な土地活用ができるように、しかも手続きができるだけない状況で開発ができれば、市としてもまちの魅力を高めることができ、人が集まる施策が打てるということを伝えさせていただいています。 公共交通にしても無料の巡回バスを運行させていただいていますが、多く利用していただけるルートもあれば、利用していただけないルートもあります。利用していただけないということは、逆に言えばまだ自分たちで移動手段があるのではないかとということも考えられます。 空き家の活用については、市街化調整区域では用途変更は非常に厳しく、空き家地権者の意向があります。そのため、近隣の方や行政が空き家として何とか活用していただけないかと言っても地権者の協力がなければ問題解決に至らないので、市としてもどのように進めていいのか悩ましいと思っていますのでご理解していただきたいです。
会 長	県の幾つかの農林関係の仕事をさせていただいていますが、中山間地を回ると、農業は基本的に厳しいが、すごく頑張っている集落があります。そのすべての集落で言えるのは、そこにリーダー、まとめ役がいらっしゃることです。まとめ役がいらっしゃると、そこを核としていろんなことが動いていきます。数日前にNHKの番組で豊田市の敷島地区の放送があり、少し前にその地区に直接話を聞くことができました。そこには100世帯くらいの移住があるがそれでも厳しいという話でした。そこには公務員のOBがまとめ役でいらっしゃいます。地域の中で核となる方を中心にまとめることができるのかは、すごく大きな要素になると思いました。
副会長	人口問題や地方創生をやってきましたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略はやるのがかなり幅広いです。子育てを含めて市町村だけでやることに限界がある中で、愛知県が広域自治体として関係市町村と連

	携する取組が必要と思っていたので、一つ前進と思います。これをきっかけに愛知県の人口問題が解決できればと思っています。
会 長	この11市町村の中で4つのまちの総合計画や総合戦略に関わっていますが、違う議論があつて地域によっていろいろと攻め方があると思いますので、愛西市ならではの取組を皆さんの知恵を出し合つて考えれば良いと思います。
事務局	4. 議題 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について <資料2について 事務局より説明>
会 長	基本目標ごとに議論するというよりは相互に関係すると思いますので、全体を通じて質問やアドバイス、提言等を含めて自由に議論いただきたいと思います。
副会長	シティプロモーションに関しては、視点が良かったと思います。市外に向けてのシティプロモーションはよく言われていますが、市民に対して市の魅力とか、いいところを改めて分かってもらう取組は、シビックプライドの醸成に繋がります。今後若い人たちが愛西市に住み続けたいとか、一度出たとしても戻ってくる人たちが増えてくる持続可能なまちにしていく視点が大切だと思います。 基本目標4に関して、先日、コミュニティの活動とか、コミュニティの中での防災力の話で、愛西市民の方と話をする機会がありまして、熱心に市民活動されている方も多くいました。ただそのときの会議の中で、自治会長などの高齢化が進み人材不足が大きな課題であると話されていました。防災を考えると自助・共助が今後低下してくると思いますので、その辺りをより評価していき、しっかり取り組んでいくことが必要だと思います。
委 員	新規就農者は、皆様のサポートがあり累計者数が増えていると思います。就農した後、いろいろな課題や難しさがあるとよく伺います。本市では就農者がこれだけ増えているが、農業の規模感とか、就農されたその後、農業でしっかりと収益を上げながらやっておられる方が多いのか、いろいろな課題で辞められる方が多いのか、その辺りをお聞かせください。
委 員	イチゴの新規就農事業を4年前から、愛西市、津島市、JAあいち海部、県農林水産事務所と協力して、農家をサポートしています。先進のJA三河、JA西三河から勉強させてもらい、この6月に1期生が卒業して、出荷が始まったところであると思います。県農林水産事務所に10

	年先を見据えた事業計画案を立ててもらい、農地の取得から資材の購入等のすべてのシミュレーションをやっていただき、これでいけるだろうとスタートしています。他の農作物でも予定されているようですが、採算ベースに乗せられるのがイチゴとレンコン、他の地区でもイチゴだけが突出して新規就業事業が多いです。ある地域では、5年で20人ぐらい入ってきて、売り上げも1億、2億伸びた産地もあります。JAあいち海部のシミュレーションによると、10年後には海部いちご組合も半分しか残らないという結果でした。それをどうにかしなくてはというところで、農林水産事務所も1丁目1番地の施策と思われる、そういう状況です。
職 員	レンコン、イチゴの就農者が多い状況です。その後、レンコン道場、イチゴ道場で2年間しっかり研修され、資金面でもある程度投入できる方が新規就農されるので、その後辞められたとは聞いていません。
委 員	就農定着のために、県農林水産事務所農業改良普及課で就農5年目ぐらいまでの方の集めたセミナーを開催しています。また就農状況確認ということで個別に農家を回り、相談に乗ったりしています。
会 長	レンコンはイチゴに比べると付加価値がつけにくく、かつ重労働と思っていましたが、新規就農者で頑張っている成功されているんですね。
委 員	以前はすごい機械を使って収穫をしていましたが、今は水掘りで、なるべく機械に資金をかけない方法に、変わってきています。
委 員	外国人のサポートで、ホームページはいろいろな言語に対応していると思います。市内で働かれている方や家族向けにコミュニティとかがいろいろと取り組まれていると思いますが、そういった方の意見を、ホームページの個別の発信に少しアレンジがあると良い。消滅可能性自治体の説明の際に若い女性の比率がありましたが、外国人も入れるはずだと思いますので、そういったところまで意識した取り組みがあると良いと思います。
会 長	外国籍の方への対応は、あるのでしょうか。
事務局	愛西市も外国籍の方は、年々増えてきています。コロナ前とコロナ後で国籍も変わってきているので、実情が掴みづらいところはあります。 市がボランティアの方の協力で行っている日本語教室では中国の方は熱心ですし、トルコ、ベトナムの方も話を聞きに教室へ通っています。 市役所の窓口では、多言語に長けている職員はいないので、どうしても翻訳機、ポケットクを活用しながら対応している事例が増えているの

会 長	が実情としてあります。ただ持続可能性ということになると、お住まいの地域に外国籍の方がどう根づいているか、我々はその視点に入り込んでいないところがありますので、言葉の壁とか年代の壁とか、今後しっかり実情を掴みながら、愛西市としての外国籍の方へのお知らせなどの手法を工夫していかなければと思っています。 私の大学の国際学部にも留学生がたくさんいますが、日本人と同じように授業を受けています。ある市で留学生が頼まれて、市役所に入って受付の案内の段階から、外国人の目線で見た時に何が情報として足りないか、留学生が市役所へ入ったところから追いかけてみていましたが、結構面白かったです。 半田市で、ある中学校で初めて防災訓練に意識的に在住の外国籍の方をいっぱい呼んで実施しました。すごく盛り上がりました。地元の区長は、地域の外国人を支援しなければという存在にしか思っていなかったようですが、一緒に防災を担っていける仲間だということを実感できたと話されていました。そういう時代なんだろうなと思いました。
委 員	企業誘致の目標値に到達した成功要因のようなものがありましたら教えていただきたいと思います。
市 長	企業誘致については、海部管内では愛西市が成功した事例で、現在、あま市が事業を行っていらっしゃいます。愛西市は2区画目ということで、弥富インター付近で企業誘致をやろうと計画しています。愛西市のほとんどが市街化調整区域であり、市主導で規制を乗り越えるには、かなりハードルが高いので、県の企業庁とともに事業を進めてきました。事業を進めるにあたっては、佐織地区では地権者と地元が非常に積極的に用地取得のとりまとめや、市との意見交換に協力的であり成功しました。一方で市として企業庁との調整にかなり苦労しましたがハードルを越えてきました。やはり企業庁との信頼関係が一番大事だと思います。今、弥富インター付近にて事業を進めていますので、次の段階の企業誘致ができれば良いと考えています。 やはり人が住んでいただける市街化を増やすためのまちづくり、駅周辺のまちづくりを進めていますので、この企業誘致のノウハウを活用しながらやっていきたいと思っています。
委 員	企業誘致が一番インパクトある施策なのかなと思います。市街化と同時並行のところもすごく良いと思いました。次期計画に向けましては、更なる企業誘致のところの目標数を期待したいと思います。 集落とかコミュニティのリーダーの存在がすごく重要であるとの話がありました。把握されているリーダー的存在の集まりがあれば教えてください。

委 員	農業にしても商工業にしても、リーダーと言いますか取りまとめ役が非常に大事であり、商工業者にとっても地域で引っ張ってくれる人として、高齢者の個人経営が結構あります。商工会自体も将来に向けての長期計画を進めています。事業者、会員のためになることを増やしていかないと会員が減るばかりでは困りますので、起業しようとする方へのセミナーとか力を入れています。しかし、近年は店舗型の起業者が少なくなり、自宅においてパソコン一つで起業される方が多くなっています、実態の把握に苦慮している現状です。
会 長	ショップインショップというか、店舗の中の一角だけを異業種、別の方に入っていただくような事例はないですか。店は持てないが作ったものを売りたいから一角を借りてということはありますか。
委 員	そこまで把握できていないのが現状で、あいさいさん祭りとかで、趣味的な感覚でブースを取得して、マママルシェという形で参加する方は年々増えてきています。それ以上のことを把握するのはなかなか難しいようです。
委 員	愛西市の観光協会は13年目になります。市制20周年ということで計画されているようですが、全般に観光行政は必要であると思っています。市の観光資源を一度見直して皆さんに来ていただけるようにしてほしいです。マンホールカードに7,000名くらい、遠くからも貰いに來ています。興味のある方も多く、そういう観光資源を外部に提供するのは観光協会の役割であると思っています。 観光協会の設立総会で、観光は産業だという話をいただきました。産業は幅が広く大変な部分もありますが、愛西市のPRも兼ねて方々でPRしています。 もう一つ、地域連携、愛西市だけでは観光は成り立ちません。尾張津島天王祭りでもそうですし、先般、金山駅で産地の物産展が催されて、レンコンはすぐに売れてしまいます。そういったイベントに参加して、愛西市のPRに心がけたいと思います。愛知県からレンコン街道、農産物の認定をいただいています、もっとPRする部分があると感じています。各方面から情報をいただいて観光資源の確立を進めてく段階であると思っています。
委 員	佐屋駅前の開発が始まったと伺ってしまして、駅前開発されると、現在の道の駅との連動、道路だけではなくて観光開発の連動として、どんな構想をお持ちなのかお聞きします。
市 長	道の駅は開駅からかなり年月が経っていますので、今回、大規模改修

	事業を進めています。現状の道の駅の改修と鶴戸川の東側に都市公園を併設します。都市公園の中には、この近隣ではなかなかないインクルーシブ遊具を設置しますし、市内外から多くの方に来ていただきたいと、現在の計画を進めさせていただいています。 佐屋駅は当然、この道の駅から一番近い最寄りの駅ですし、現状の混雑状況や交通、自転車等のアクセスの危険性もありますので、その辺りを加味して、計画を進めています。これからが、佐屋駅の開発は勝負であるので、いかにスムーズに事業が進められるか、地権者や地元の方々が、ご協力いただけるかどうかにかかっていると思っています。
会 長	総合戦略の進捗の会議でもありますので、資料2には多くの指標があります。令和7年度の指標をすでに超えていて順調に進んでいるものや、このままだと目標達成が厳しい指標もあります。そこに対して、今年来年こんなところに力を入れて目標に近づけたいとの話がいただけるといいと思います。
事務局	全体的なことは、この推進委員会の直下に推進本部、その下に本部部会にて個別の事業が繋がっていて、毎年度このような指標で進捗状況を示しています。達成している項目は、達成していればそれでいいのではなく、更に上を目指し、現状維持が難しいようであればどうしていくのか、しっかりと振り返っています。達成しづらい状況にある事業は、どのようにすれば達成に近づけるのか、課題やなぜそうなったのかの振り返りをしっかりしないとイケません。この総合戦略とは別に市の最上位計画の総合計画があり、それに基づいた事業計画の検証シートをそれぞれの課が作成しています。この検証シートにより事業課、財政課、経営企画課で検証したうえで、お金も、人もどう動かすのかをしっかりと行って、次に繋げていくよう毎年繰り返している状況です。
会 長	いわゆるPDCAを頑張って回しているということを話していただきました。
委 員	基本目標2の観光発信（ふるさと応援寄附者数）のR7年度目標値が700人、R5年度実績は3,532人になっていますが、どのように目標値を立てられたのか、何か理由がありますか。
職 員	総合戦略策定時の立てた目標値であり、大幅に目標値を超えている状況です。
会 長	総合戦略策定時は503人であり、それを700人に増やす目標値にしようとしたのが、実際には、はるかに超えた3,500人までになっているということです。

委 員	次期計画策定に向けて、野心的な目標値をより一層掲げていただきたいと思います。K P I の達成はすごく大変であるとは承知していますが、この数値を見ると安心しますし、先ほどの成功事例もありますので。 企業誘致・農業・観光が、収入増加の柱となってくると理解しています。そこで、愛西市がモデルにする全国の他市町村はありますか。立地的にも観光資源的にも参考になるところへの先進地視察は重要であると思っています。
会 長	むしろ来ていただくようになるまで頑張らないと。
委 員	観光協会では、毎年、役員研修を実施しています。近江八幡や新城市、南知多町へも行きました。いつも感じることは、これはという観光資源の目玉がないということです。豊川市には豊川稲荷があり、近江八幡や南知多町にも観光があり、新聞・テレビで取り上げられるようなものを作らなくてはならないと思っています。毎年勉強をしています、何か情報をいただければありがたいと思っています。
委 員	基本目標 2 の基本的方向性の中に自然資源、歴史・文化資源の記載があります。新たに観光資源の数を、この指標に盛り込むことについてはどうでしょうか。現実的に前に進んでいく一つのきっかけになると思います。
事務局	次期総合計画を策定するときには、第 2 次総合計画になかった指標も取り入れた方が、市の動きが見えやすいと思います。K P I は大事なところですので、委員からの意見は内部で検討したうえで、皆さんに改めてお諮りしますので、ご意見をいただければと思います。
委 員	新製品開発ですとか、アイデアコンテストみたいな施策とのシナジー（相乗効果）もあると思っています。若手からの新しいアイデアの提案みたいなところと紐づけながら連動するということはウィンウィンになると思いますので、情報提供します。
委 員	津島高校が中高一貫校になります。津島高校の生徒は日比野駅を利用して、愛西市からの進学率も非常に高いと思います。中高一貫校となると愛西市の中学生がかなり入学するのではないかと。他県からもあると思いますが、それに対して何かありますか。
職 員	津島高校の中学部が開校することにつきまして、市としても市内の中学生が減少している現状で、非常に注視しているところです。ただ、どの程度の人数が希望しているか、分かっていない状況であります。4 月

市 長	に清林館高校の中等部が開校し、愛西市からは10人が進学しました。 現在市内には、市立中学校が6校と清林館高校の中等部があります。清林館高校は今年度から中等部を創設されましたので、まだ1年生しかいませんが、3学年揃うと中等中学校として授業等が行われることになり、選択肢が増えると思います。そこに津島高校が中等部を創設されると選択肢が増えて、生徒や保護者、家族にとっては良いことであると思いますが、愛西市立中学校を運営している自治体としては、今後、中学校をどのように運営していけば良いのか、しっかり考えていかなければなりません。特に公立中学校には、県が先生を派遣されますので、先生が我々の意向どおりに各学校に配置される保証はありません。生徒も減ってきていますので、学校現場は非常に厳しい状況が続くと思っています。
会 長	施策3-4の「次世代の愛西市民を育む」は、とても大事なことだと思います。その一つの指標が「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」でR5年度の実績が70パーセント、小学生と中学生を合算した数値だと思いますが、おそらく中学生は低く、小学生は高いと思います。日本全国で調査をしています、3分の2の子どもしか将来の夢を持っていない現実があります。すごく大きな問題であると思いますが、愛西市を好きになって、将来、愛西市に住み続けたい子どもたちを育てるという意味では、まさにそこが目標にも繋がってきます。R5年度実績、30パーセントの子どもが将来の夢がないと。その辺りに対して何か意見はありますか。 これは学校だけの課題ではなく、家庭でどういう会話をされているかが子どもたちに影響したり、というのもあると思いますが、70パーセントは衝撃的な数値で、日本の子どもはどうなっていくのかとすごく思います。子どもたちに将来の夢を持つために愛西市として頑張っているようなことはありますか。
職 員	この70パーセントの数値につきましては、小学生が80パーセント、中学生が60パーセントで中学生の方が低い現状があります。それに対して教育委員会としましては、中学生体験学習事業で東北地方へ中学生を派遣して、震災の被災地を見学して防災の意識を高め、家庭で防災について話し合う、そういった授業を行っています。また各学校で職場体験、キャリア教育も行っていて、いろいろな職場を体験して将来に向けて考えるという授業も行っています。目標値100パーセントの達成は困難であると思いますが、実績値を高めるための事業に取り組んでいます。
委 員	道の駅ふれあいの里HASUパークは、いつオープンするのでしょうか

職 員	か。基本目標２のＲ７年度目標値２８万人、総合戦略策定時の数値とは理解していますが、企業でいう費用対効果とか投資対効果を見越した数値ではないと思っていますが、せっかく整備するパークでありますので、どれくらいの集客を想定していますか。 道の駅ふれあいの里HASUパークは、令和７年４月に一部、農産物の直売所をオープンします。令和８年にグランドオープンを予定しています。集客の見込みは難しいところですが、にぎわいの創出でかなりの人の来駅を期待しています。
委 員	イベント等、いろいろと企画を打って、集客を上げていただきたいと思います。
委 員	観光発信の観光拠点整備について、道の駅から木曽川と長良川を跨いだところに木曽三川公園の下流域の拠点となる木曽三川公園センターがあります。そこがオープンして４０年くらい経ちますので、リニューアル工事を進めています。リニューアルオープンができれば、木曽三川公園の利用者も増えてくるので、この地域の活性化にも繋がるだろうと思います。また長良川サービスセンターがありまして、２０２６年、愛知県・名古屋市の主催でアジア競技大会が開催されます。その中のレガッタ競技の大会会場として仮決定しています。世界的なイベントもありますので集客を考えていけるとと思います。併せて木曽三川を軸として、サイクルツーリズムを考えているところであり、観光として盛り上げていければと考えています。
委 員	レンコン、イチゴがＪＡあいち海部の主品目となっています。新規就農者で言いますと県の近代化資金、新規就農支援資金やＪＡ独自の融資資金があり、就農者の環境づくりで助成等を行っている状況であります。ＪＡの施設に、レンコンセンターやイチゴセンターがありまして、従来自宅で出荷作業をしていた段取りをセンターで集中的にやることで、作業効率の向上が進んで、若い世代が時間をつくれるような環境づくりに取り組んでいます。レンコンの産地でありますので、海外への進出であったり、テレビの報道、ニュース番組でも取り上げていただき、この地域の農産物のＰＲ貢献をしたいということが、ＪＡができることであると発表させていただきます。
会 長	基本目標ごとに多くの指標があり、目標値を超えるている指標もありますし、ここ２年間でがんばらなければ達成できない事業もありますが、全体として、今の状況を共有できたと思いますので、議題を終わりにしたいと思います。その他何かありますか。

事務局	5. その他 今年度のまち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会は本日で終了です。来年度は総合戦略の計画期間の最終年度となっています。そのため、来年度は委員会を3回開催する予定をしていますので、御出席賜りますようお願い申し上げます。
会 長	来年度は新しい総合戦略を検討しなければならない。DX、デジタル田園都市、市町村としてどうするのか話題になるかもしれません。 これをもって閉会といたします。ご協力ありがとうございました。 閉会